



小澤征爾



リカルド・モラレス



FOCUS

3.25 [金] 27 [日] 水戸室内管弦楽団第95回定期演奏会
29 [火] 東京公演
高く聳えるベートーヴェンの頂へ

文 中村晃

待望のベートーヴェン〈第5番〉

近年の小澤征爾 & MCO が取り組んでいるのが、ベートーヴェンの交響曲です。今回の演奏会では、遂に〈交響曲 第5番〉を取り上げます。わが国では『運命』の名称で広く知られ、ベートーヴェンの偉大な交響曲の作品群の中でも、ひときわ高く聳える傑作であることは、言うまでもありません。「このように運命は戸を叩く」とベートーヴェンが言ったとされる冒頭の「タタタ／ターン」というモチーフから、第一楽章全体、研究者によってはこの交響曲の全てが、導き出されていると考えられています。つまり、この作品は驚異的なまでに精巧に創られた音の建築物であると言えます。その一方で、この作品が内包する、激しい葛藤とその克服のドラマ、とりわけ終楽章で訪れる「勝利の爆発*」に、聴く者の心は震撼します。

これほど有名で重要な〈第5番〉ですが、実はMCOで取り上げるのは今回が初めてとなります。勿論、小澤征爾総監督はこの作品を、ボストン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、フランス国立管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど、世界中のオーケストラで演奏してきました。このように小澤総監督にとっては、演奏を重ね、彫琢してきたレパートリーであるのですが、MCOでの演奏は、大きな挑戦と言える

かもしれません。この劇的な交響曲を大規模なフルオーケストラによる圧倒的な音響の下に演奏するのではなく、室内管弦楽団という規模でどのような演奏を行うのか？小澤総監督はMCOについて、指揮者とのやりとりにおいて、これほど反応の良いオーケストラは世界でも無いと語っています。また、2015年の第92回定期演奏会でベートーヴェンの〈交響曲 第8番〉の演奏の後に、音楽のディテールにまで到達できる演奏だったと語っています。今回の〈第5番〉の演奏でも、これらの要素が、鍵となってくることと思います。小澤 & MCO でしか表現し得ない、精緻であり、魂の籠った演奏にご期待ください。

*吉田秀和：ベートーヴェンのシンフォニー ひとつのノート（講談社『ベートーヴェン全集3』）より引用

初のシベリウス作品、そしてモラレス登場

演奏会の第1部は指揮者なしによる演奏です。演奏会の幕開けは、シベリウスの劇音楽『クオレマ（死）』作品44より〈悲しきワルツ〉。MCOがフィンランド人作曲家シベリウスの作品を取り上げるのも、今回が初めてとなります。この曲は劇の次のような場面に基づいています。「病のため死の床に伏す婦人が、夢うつつにワルツの旋律を聴き、憑かれたように踊り始める。やがて戸を叩く音によってワルツは破られ、戸口に死の影が忍び寄る。」

続いては、2014年10月に、MCOのクラリネット奏者としてメンバー入りしたリカルド・モラレスの独奏によるモーツァルト〈クラリネット協奏曲〉K.622です。モラレスは現在、フィラデルフィア管弦楽団に在籍し、その情熱的で流麗な演奏が世界の聴衆を驚かせている才人です。モラレスによるクラリネット奏者の聖典とも言えるモーツァルト作品の演奏をお楽しみください。

なお、3月25日のコンサートの模様は、NHK水戸放送局の制作により総合2ch（マルチ編成サブチャンネル・茨城県域）で生中継される予定です。茨城県内の皆様には、こちらも合わせてご注目ください。

水戸室内管弦楽団
第95回定期演奏会

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

3/25 [金] 18:30 開場
19:00 開演
3/27 [日] 13:30 開場
14:00 開演

東京公演

会場 サントリホール大ホール

3/29 [火] 18:30 開場
19:00 開演

出演 小澤征爾（指揮）
リカルド・モラレス（クラリネット）

[第1部] 指揮者なし
シベリウス：劇音楽「クオレマ」作品44より
〈悲しきワルツ〉

モーツァルト：クラリネット協奏曲 イ長調 K.622
[第2部] 指揮：小澤征爾
ベートーヴェン：交響曲 第5番 八短調 作品67

3.6 日 at 15:00 Duo Reflet ピアノ・アンサンブルの世界 Vol.2



前回リサイタルから4年が経ち、この度2回目のリサイタル「ピアノ・アンサンブルの世界 Vol.2 煌めく音の融合と対話」を開催させていただき運びとなりました。今回も2台ピアノの魅力や面白さを存分に感じていただける曲目を選びました。

まずはソナチネ・アルバムにも収録されているモーツァルトのハ長調ソナタに北欧の作曲家グリーグが第2パートを追加した変わり種ソナタで幕開けです。第1ピアノは原曲そ

のままに、グリーグが素敵な対旋律やハーモニーを絡ませています。続いて、そのグリーグの元を訪れた事もあるオーストラリア出身の作曲家グレインジャーの〈リンカンシャーの花束〉。吹奏楽の経験の有る方にはよく知られた名曲を2台ピアノでお聴き頂きます。持続音である管楽器の音を減衰音であるピアノで表現するためにグレインジャーが施した秘策とは？そして現代日本を代表する作曲家の一人、大河ドラマのテーマ曲等でもお馴染みの吉松隆の〈ランダムバード変奏曲〉は、皆様を異次元の世界へ誘う事でしょう。

後半はラテンアメリカの舞曲集でコンサートホールの雰囲気ガラッと変える、ボルコムの〈思い出〉から始まります。続くアルチュニアン、

～煌めく音の融合と対話～

ババジャニアン共作の〈アルメニア狂詩曲〉は、短い曲ではありますが、抒情的なメロディの前半と躍動感溢れる後半のコントラストが見事です。締めくりはデュカスの〈魔法使いの弟子〉。ディズニーの『ファンタジア』でも有名な、魔法使いの弟子と魔法がかけられた箒のどたばたをユーモラスに描いたオーケストラ作品を、作曲家自身による2台ピアノ編曲版でお送りします。

古典派モーツァルトから現代を生きる吉松隆まで、時代も国も異なる6曲を弾き分けるのは簡単な事ではありませんが、挑戦・前進し続けたいと思っております。お一人でも多くの方にお聴きいただけましたら幸いです。

Duo Reflet (佐藤靖子・吉成純子)

3.19 日 at 16:00 埜美里サクソフォン・リサイタル

～ジュリアン・プティ氏を迎えて～初来日記念公演



「美里！もっと音を保って！」
「ヴィブラートを息でかけて！」
「音程！ちゃんと自分の音を良く聴いて！」

気が遠くなるくらい、寒くどんよりとした曇りが広がる真冬の空の下、北フランスはカンブレ音楽院の古びた教室にジュリアンの澆刺とした声が響き渡る。彼は、フランス人には稀に見るくらい真面目気質の熱心でこれでもかと言う程一生懸命に生徒を指導する愛情たっぷりの熱血家。フランスでは、定期的に国が定めた

バカンスがあり中でも夏の2か月以上のバカンスとノエル（クリスマス前から年始にかけての休み）は家族だけでゆったりと過ごす。しかし、ジュリアンは「美里のバカンスの予定は？レッスンをしよう！」と、こちらの返答を待つことなくレッスンの予定を立てて下さるので気が気ではない。夏はジュリアンのご実家の養鶏場（?!）で合宿、冬は大晦日お正月関係無し。奥様はチェリストのベアトリス・レイベル女史で、私が弦楽器の曲を勉強する際は実際に目の前でボーイングを見せながらのレッスン。それはそれは目から鱗が落ちる思いだった。

彼らの存在のありがたさや、フランス留学の貴重さを日本へ帰国して四年が経とうとしている現在改めて

感じる事が出来る。私の日本での演奏活動も最近では徐々に定着しつつあり、毎回舞台に出る前には必ず彼の言葉が頭によぎる。「僕達はサクソフォンを演奏しているのではない。美里が演奏すれば、それは新しい楽器、“ミサトフォン”さ！音に生命を吹き込み、自分だけのカラーで音楽を奏でて！」

ただただ前を見るのが精一杯でエッフェル塔にすら行った事がなかったあの頃。昨年、改めてパリを訪れ実は初めての「観光」をした事は、ここだけの話。

キツネは言った。「たいせつなことはね、目に見えないんだよ……」

そっと目を瞑れば、いつだってそこは、パリの空の下。

埜美里

3.20 日 at 14:00 M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部コンサート



G. フォーレのセンシブルな知性と甘美な美しさで、一瞬にして私を魅了した作品は〈レクイエム〉でした。突然目の前に現れた人物の素性の何もかも分からぬまま、ただ心惹かれていく一目惚れのようなものでした。テキスト分析の作業、その過程も経ぬうちに、既に心に深く留まっていた音楽でした。

この度、若い女声がこのフォーレ〈レクイエム〉を歌う機会を得ました。混声で書かれたこの作品を女声版で演奏することはめずらしく、ま

た困難もあるのですが、歌うことに迷いはありませんでした。作品の本質的な美しさと魅力は何ら損なわれることはなく、むしろ、新たな出会いこそあるのではないかと。水戸芸術館のホールだからこそこのチャレンジでもあります。

今回、この曲の上演に室住素子氏を迎えました。改めて紹介するまでもなく、氏は日本を代表するオルガニストであり、また水戸芸術館のオルガンとその歴史を最も愛し、知り尽くしているオルガニストです。また何と、氏自身、東大在学中に自ら立ち上げた女声合唱団の演奏会で初めてフォーレ〈レクイエム〉の女声版を歌い、その時の教会オルガンとの出会いが室住氏のオルガニストとしての原点であると聞き、この偶

～わたしはあなたに会いに行く～

然に心が高鳴りました。氏が奏でるポジティブ・オルガンで歌う女声版フォーレ〈レクイエム〉を、どうぞお楽しみいただけますよう。

プログラムは他に、キングズ・シンガーズの名テナーとして世界中を魅了し続けたボブ・チルコットによる〈A Little Jazz Mass〉に女声でトライ。こちらは、多彩な表現活動で広く定評のある小林由佳氏のジャズ・ピアノで大いにお楽しみ頂きたいと思います。

そして2013年、2014年、全日本合唱コンクール全国大会演奏曲の鈴木輝昭作品から話題の多声部無調合唱曲〈妖精の距離〉をお聴き頂きたく、お待ち申しあげます。

寺門芳子

(水戸第二高等学校コーラス部顧問)

3.12 日 市民のためのオルガン講座 実技レッスン受講生による発表会

パイプオルガンに挑戦した生徒たちが、いよいよステージに登場！ 文 高巢真樹

昨年9月にスタートした2015年度「市民のためのオルガン講座」。実技レッスンコースに参加した小学生から大人までの5名が、半年間の学びを終え、その成果を披露します。最初は、ほとんどの方がパイプオルガン初体験。当館音楽部門の元主任学芸員でもあるオルガニスト・室住素子さんの温かいご指導のもと、「きらきら星」のメロディ、J.S. バッハやバッ

ヘルベルなどの課題曲を通して、基本的な演奏法を身につけました。そして年末頃から自由曲に取り組んでいます。「パイプオルガンを弾くのが一生の夢だった」と語り、県外から熱心に通っていらっしやう方、仕事や子育てとの両立の中、あえて難しい曲に挑戦された方など、今回もさまざまなドラマがありました。

3月には、それぞれの想いを音にこめて、

すてきな演奏を聴かせてくれるに違いありません。皆さまにもぜひ、5人の音楽を聴き届けただけなら嬉しいです。

「市民のためのオルガン講座」
実技レッスン受講生による発表会

3/12 日 13:00 開演

会場 水戸芸術館エントランスホール 入場無料
出演：井上葵愛、高木もも花、坂本志乃二、江田朋子、堀川こずえ ※曲目等詳細は、HPをご覧ください。

FOCUS

最近の公演から

2016.1.11 クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル

1月から開始された日本ツアーの最中に、ツィメルマンは水戸芸術館に立ち寄り、今回のオール・シューベルト・プログラムのコンセプトを説明する記者会見を行った。そして、いよいよ迎えた水戸公演。朝一番にツィメルマン専用のスタインウェイ・ピアノが運び込まれ、彼のヨーロッパ公演にも随行するイタリア人のピアノ技術者アントニノ・ラポッチョがホールに入り、調律が行わ

れる。このような楽器への徹底的なこだわりは、ツィメルマンがいかに演奏に心血を注いでいるかを端的に示していよう。初期作品とされる可憐な〈7つの軽快な変奏曲〉を経て、シューベルト晩年の2つのソナタ (D959、D960) では、彷徨する魂の救済の物語がツィメルマンによって奏でられ、聴く者の心は打ち震えた。滅多に行われないうというアンコールだが、ツィメルマンと同郷のポーランドの作曲家シマノフスキの〈9つの前奏曲〉作品1の第1番短調が演奏された。それは、亡き大作曲家ブーレーズに捧げる哀悼の音楽

であった。《中村》アンケートから■表現力がとても劇的で圧倒されました。生で聞く迫力というか音の圧力が迫って来て、実演で聞く醍醐味を感じました。(水戸市：T.M.さん) ■魂の演奏を聴かせていただきました。感動で身体が震えています。(取手市：H.I.さん) ■最初から音色の美しさに心を奪われたが、後半になって、私たちが楽器の一部になったような一体感を感じて、まるで、一緒に演奏しているような幸福な時間でした。終わった瞬間に涙が出たのは初めてのことでした。(ひたちなか市の方)

Mito Chamber Orchestra's 25th Anniversary

写真展

『水戸から世界へ 水戸室内管弦楽団——25年の軌跡』

1990年に吉田秀和初代館長の提唱で、日本を代表する指揮者の小澤征爾、そして国内外で活躍する名手たちによって結成された水戸芸術館専属楽団・水戸室内管弦楽団(MCO)。水戸を起点に、世界へと文化を発信してきたMCOの、四半世紀にわたる創造と挑戦の記録を、選りすぐりの写真でたどります。



2001年 第2回ヨーロッパ公演(ウィーン・ムジークフェライン大ホール)

3/1[火]—3/31[木]

水戸芸術館エントランスホール(入場無料)

休館日|月曜日 ただし3/21[月・祝]は開館、翌22[火]は休館

下記の会場でも同時開催いたします。

→水戸京成百貨店1階エスカレーターサイド 3/1[火]—3/31[木]

チケット・インフォメーション

《2月27日(土)発売分》

■水戸室内管弦楽団 第96回定期演奏会(指揮・ヴィオラ:ユーリ・パシュメット)

6/4(土) 18:30開演、6/5(日) 14:00開演

料金[全席指定] S席 ¥7,000 / A席 ¥5,500 / B席 ¥4,000 / ユース(25歳以下) ¥2,500

《2月28日(日)発売分》

■高山三智子 ピアノ・リサイタル

6/18(土) 17:30開演 料金[全席自由] ¥3,500

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎ちょっとお昼にクラシック 猶井正幸(ホルン)ほか 金管五重奏
……………2/26(金) 中央△、左右○
- ◎ Duo Reflet ピアノ・アンサンブルの世界 vol.2……………3/6(日) 自由席○
- ◎ 搞美里 サクソフォン・リサイタル……………3/19(土) 自由席○
- ◎ M.L.R. & 茨城県立水戸第二高等学校コーラス部コンサート……………3/20(日) 自由席○
- ◎ 水戸室内管弦楽団 第95回定期演奏会(第2部指揮:小澤征爾)
……………3/25(金) 完売
- ……………3/27(日) 完売
- ◎ ちょっとお昼にクラシック IL DEUVU(イル・デーヴ)……………4/30(土) 中央△、左右○

※2/3(水)現在の状況です。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な3月のスケジュール

コンサートホール ATM

■水戸市内中学校 東関東吹奏楽・関東合唱コンクール出場記念演奏会(入場無料)

□3/5(土) 11:00開演 第四中学校

□3/13(日) 11:00開演 第二中学校 / 15:00開演 千波中学校

■ Duo Reflet ピアノ・アンサンブルの世界 vol.2

3/6(日) 15:00開演

料金[全席自由] 一般 ¥2,500 / 大学生以下 ¥1,000

■ 搞美里 サクソフォン・リサイタル〜ジュリアン・ブティ氏を迎えて〜

3/19(土) 16:00開演

料金[全席自由] 一般 ¥3,000(当日 ¥3,500)

大学生以下 ¥2,000(当日 ¥2,500)

■ M.L.R. & 茨城県立水戸第二高等学校コーラス部 コンサート

3/20(日) 14:00開演

料金[全席自由] 一般 ¥2,500 / 高校生以下 ¥1,000

■ 水戸室内管弦楽団 第95回定期演奏会(第2部指揮:小澤征爾)

3/25(金) 19:00開演、3/27(日) 14:00開演

料金[全席指定] S席 ¥15,000 / A席 ¥12,500 / B席 ¥10,000

エントランスホール

■写真展|水戸から世界へ 水戸室内管弦楽団—25年の軌跡(入場無料)

3/1(火)〜3/31(木)【休館日】月曜日

※ただし3/21(月・祝)は開館、翌3/22(火)は休館

■パイプオルガン・プロムナード・コンサート(入場無料)

3/12(土)「市民のためのオルガン講座」実技レッスン受講生による発表会

13:00〜(60分程度)

ACM劇場

■『王女メディア』出演:平幹二郎、山口馬木也、三浦浩一、若松武史 ほか

3/5(土) 15:00開演、3/6(日) 14:00開演

料金[全席指定] S席 ¥6,000 / A席 ¥5,500 / B席 ¥3,500

現代美術ギャラリー

■田中功起 共にいることの可能性、その試み

2/20(土)〜5/15(日) 9:30〜18:00 ※入場は17:30まで

【休館日】月曜日 ※ただし3/21(月・祝)は開館、翌3/22(火)は休館

【入場料】一般 ¥800 / 前売り・団体(20名以上) ¥600

■クリテリウム92 土屋紳一 ※料金は展示会の入場料に含まれます。

■高校生ウィーク2016

3/6(日)〜4/3(日) ※入場は17:30まで

【カフェ開場時間】(火・金) 15:00〜18:00 / (土・日・祝) 13:00〜18:00

【カフェ会場】ギャラリー内ワークショップ室

【無料招待対象】高校生または15歳〜18歳の方

水戸の主な3月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・岡本侑也 チェロ・リサイタル(ピアノ:阪田知樹) 3/31(木) 18:30開演

■茨城県立県民文化センター(大ホール) TEL / 029(241)1166

・ザ・ホール・ブロン&川久保陽紀 デュオ・コンサート 3/19(土) 14:00開演

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30〜18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

知らぬ間にピアス(極小)を片方なくし、年明けからツイてない…と思っていたのですが、なんと、服屋の店員さんが試着室で拾ってくれていました。これは奇跡!今年の幸運の象徴として、今日も身につけています。(り)

いよいよ春!…かと思いきや、雪や雨の寒い日が続いている。不安定な季節の変わり目も、これを超えれば春だと思わずに楽しめたりする。昨年は、晴れた日に借楽園の梅を見る事ができなかったのでもう一度。(福)

先月号の編集後記に「今年は暖冬」と書いたら、先月号が過ぎがって配布が始まる頃にはめっきり寒くなってしまいました。最近では雪まで降るし!今年の冬は気温の変動が激しいですね。2月はやっぱり「着更着」?(篠)

小澤征爾館長がご長男の征悦さんと「徹子の部屋」にご出演。過去の「親子共演」も映し出され、時の移ろいを感じたと同時に、この番組がもう40年の長きにわたりほぼ同じスタイルを貫いていることにも驚きました。(て)

寒空の下、MCO演奏会後にメンバーのお見送りをしていた時のこと。握手した私の手の冷たさに気付いたらカルド・モラレスさんが、とっさに笑顔で差し出したのは使いすてカイロ!一瞬にして心まで温かくなった。(樹)

ブーレーズ氏との初対面は、小口MCO総楽団長と共にムジーク・フェラインの楽屋にて。その後ルツェルン、ビデオ・インタビューを収録、氏の企画・監修で「ブーレーズの肖像」を開催した。ご冥福をお祈りします。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2016年3月発行 第206号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子
福田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 藤澤純子
印刷所: 山三印刷株式会社